開　会　挨　拶

愛媛大学防災情報研究センター長　矢田部龍一

皆さん，ようこそいらっしゃいました．ありがとうございます．本当に雨が降って大変な中，よくきて頂きまして誠にありがとうございます．今，日本は非常に厳しい状況になっています．それでも，私共は，相変わらずぼんやりしているなと強く思います．

17 年前に阪神大震災が発生しました．その時，多くの地震学者が，「この国は大変な地震の活動期に入ったんだ」いうことを強く指摘していました．大変な時代ですよとしつこく言われたのですが，東日本大震災がいざ起こってみるとやっぱり逃げないで 2 万人近くの方が命を落としています．

それから，世界を見渡してみますと，ギリシャが問題を起こしている，あるいはイタリアが問題を起こしている，あと 10 年たったら，あるいは 20 年たったら，多分日本も同じような問題を起こすのかなぁっていうことを思いながらも，やっぱり問題を先送り，先送りしていっています．で，気がついた時にはどうしようもなくなっている．東日本の大震災もまさにそうなんですが，津波に巻き込まれて気がついた時には命がないということになります．あと 10 年たって本当に日本が生き残れるのかどうなのか．現時点で 1 千兆円の借金を抱えているわけですが，我々自身がちょっと本気にならないと，この借金返済は難しいだろうなという気が致します．

ところで，本日講師としてお招きしている方は，四国の土木行政を代表する四国地方整備局の川﨑局長，それから愛媛県の井上土木部長，それから前の，前の近畿地方整備局長でしょうか．現在，愛媛大学の教授の木下先生．それから初代の四国地方整備局の局長をされて，現在，四国建設弘済会の福田理事長です．

これだけの方々を一堂に集めるのもひどいなという気はしていますが，これだけの人間を集めて何をしたいのか，今回のタイトル是非見てほしいと思います．妙な名前をつけてるな，大げさすぎないかなと思って，先ほど木下先生に「このタイトルの名付け親は木下先生ですか？」って聞いたら，やっぱりそうなんですね．

日本の再構築，今我々は本当に日本に再構築に取り組まないと，1 年 1 年 1 年と弱っていきます．間違いなく弱っていきます．経済が復興したら復興したらと，みんな口癖のように言いますが，今のままで日本の経済が復興することはありません．成長戦略がありません．今，日本が立ち上がるためには，やっぱり我々自身が腹をくくって，今まで 100 の力で働いていたとしたら 150 や 200 もの力を込めて，集中して，もっと一所懸命働くしかありません．日本はそうやって戦後の焼け野原から立ち上がりました．あ

るいは明治維新を立ち上がりました．そのことを，みなさんに認識して欲しいし，もっと腹をくくって欲しいなと思います．

江戸幕府も時代の流れを読めなかったので，明治維新が起こりました．あるいは戦前の日本も時代の流れ，世界の流れを読めなかったから太平洋戦争で見事にやられました．2012 年，今の日本はそういう大きな岐路に立っているであろうと思います．そういう一つの前兆として，阪神大震災が起こり，あるいは東日本大震災というとんでもない自然災害が起きているとも考えられます．もっと大きな自然災害が間違いなくこの国を襲ってきます．

そういう意味で，この場に参加された一人一人が，今日，是非真剣に学んで，自らが時代を動かしていく，そういう意識を持って頂ければと存じます．まるで大阪の橋本市長のようなエネルギーを持って，第 2，第 3，第 4，というような，橋本市長につぐ人がこの中から出て頂ければと思います．ということで，前座の挨拶はこのぐらいに致しまして，今日はそうそうたるメンバーに講演して頂けますから，みなさん長丁場ではございますが，しっかりと聞いて頂きたいと思います．そして，日本再構築について，一人一人が脳裏に刻んで帰って欲しいと思います．簡単ではございますが，開会の挨拶に代えさせて頂きます．

目　　次

第Ⅰ編　　「日本再構築　社会資本整備の新たな道筋」

頁

開会挨拶　1
愛媛大学防災情報研究センター長　矢田部龍一

社会資本整備の現状と今後の展開　3
-四国の地域づくり「自立する四国」の持続的発展に向けて-
国土交通省四国地方整備局長　川崎正彦

愛媛県の取り組み　39
愛媛県土木部長　井上　要

公共事業調達の改革に向けて　57
-日本再構築　社会資本整備の新たな道筋-
愛媛大学防災情報研究センター教授　木下誠也

第Ⅱ編